

Catch the eye 2015年8月

2015/8/1 (土) ホームページ クーラーが効かないほど、暑い。外に出たくない。だから、歩く距離も少なくなり、このところ体重がいつこうに減らない。食べて飲むのを減らせばいいのだけど、体力をつかなければと言いつてをする。わかっているけど、やめられない。

意外に時間がかかってしまった。8月1日をいいキりに、ホームページを再編集して、新しいページを盛り込み、更新する。けっきょく、朝から夕方まで、みっちり時間を要した。ひとまず今日のところは、これで終わりとして、来週また見直そう。

この新しいサイトを開設して2年半。いつも仕事で言っているとおり、新しい試みも2年半ぐらいうると、ものごとのよしあしが見えてくる。このホームページもちょうどそういう節目。だから再編集を思いついたのだと思う。自分で作ったから自分ですぐに編集できるのがよかった。

新設の時、既成のものを利用するつもりだった。長いつきあいの知人にそう話すと、『それはどうかなあ、自分でつくってきた人は、たぶん満足できないと思うよ、既成のものは』。おっ、よくわかってきているじゃないの。厳として動かない分、おつと思つた時は意外に素直なものでした。

2015/8/4 (火) またの夏のいい旅 梅田の地下街、人波をかきわけ駅員を先頭に救急隊が前からやってきた。運ばれていたのは若い女性だった。ぐったりして、気を失っている感じだった。熱中症かしら。連日、危険な暑さ。

異常な暑さと昨日の朝陽の赤さ。熱気に包まれているせいか、光を放たず、まもとに見ることができた。丸く赤い太陽。砂漠の太陽の感じかもしれない。それが都市の真ん中に昇る。

避暑地。そう、こんな酷暑の街を離れて、どこか涼しいところへ出かけた。十数年前のこの時期に行った信濃木崎湖。ちょうど今年も夏期大学開催の頃。

あれは本当にいい旅だった。せまる山、小さな駅、遠くまで見える線路。こういうところに住むと、大阪になんて住めなくなるなあと思つた。日中は暑くても、夜は寒いくらい。

いろんなことが重なって、あの旅につながつた。哲樂散歩の独り旅。いずれまたそういう時がくる。記録しなくても記憶しつづける、ずっと効力をもつような、そんな「間」。そう思つて、この暑さを耐えるとします。

2015/8/7 (金) 目に迫り、攻めて 神経にさわるほどの暑さ。まさに酷暑。頭を働かせる気力も失せる。外で体を使うとなると、さらに苛酷。高校野球も時期を考えなおしたほうがいいのではないかしら。そうこう言いながらも明日は立秋。

日の出時間はとうに5時台になっているし、日の入りも18時台に入った。明日の夜は淀川の花火大会があり、来週はお盆休みモードの一週間、そして大文字の送り火と続く。

4, 5, 6, 7月と来て、ちょっと一休みし、9, 10, 11, 12月一気に年末へと進む。暑すぎてポーとする頭がヒヤッとする。書いてみて目に迫る、年末までほんの4ヶ月。

先週紀伊国屋書店の文具コーナーで来年のスケジュール帳レフィルは出ていないかと探した。さすがにまだなかった。気がはやいようだけど、早々と目に攻めて、それでもちょっと自分を動かせる程度と心得る。

2015/8/12 『個で起つ』
(水)

今週に入り朝の暑さが微妙にやわらいできた。日の入りがはやくなってきた。まだ少し蝉が鳴いているが、そろそろ虫の音にかわる。今朝は雲が多く、明日は雨になるらしい。季節の変わり目に入る8月中旬。

『戦争とプロバガンダ』をため息をつきながら見た。昨夜の『あの日、僕らは戦場で～少年兵の告白～』は、なんといっていしか、怒りと哀しみ、どうにでもなり得る人間の虚しさを感じながら見た。

今朝いつものFMを聴いていた。途中でニュースが入る。DJがニュース原稿を読む。一番最初にあがったトピックは、原発を再稼働した自治体に優先して補助金をあたる、というもの。

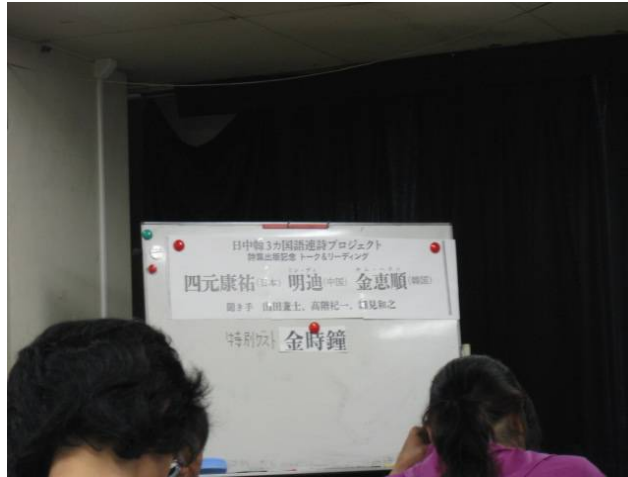
報じられるもの、報じられないもの。異なる媒体、異なる分野。バラバラのようで、どこかでつながっている世の中の大きな流れ。30年先、1945年から100年にまた迎えることになる根本的な構造変化。

その伏線を敷き始めているのが今。時間をとめられないくらい、よくもわるくも、この流れをとめることはできない。そう捉えている。だから、身に備えたバランス感覚で、状況を自分なりに観察し、自分の頭で考える。

どちらかに偏るということを本能的に避ける。持って生まれた条件のなせるワザでもあろうし、資質がエンジンになっているのかもしれない。精神を開放しておくことが大事なんだと、理屈以前に感覚でとらえている。

大きな流れを観察しつつ、自分で考え、人のためにできることを、自分の範疇で実践する。そうしてきたし、これからもそうしていく。そのようなことを『個で起つ』と表現した批評家の言葉を励みに。

2015/8/14 大阪文学学校に 日経の「文化往来」で紹介されていた「連詩」の会に出かけた。
(金) て 作者自身が朗読するのだけど、中国語のたおやかさというか、漢詩の魅力の一端をみる思いだった。



2015/8/15 自然の応え 朝晩、少し涼しくなってきた。蝉の声は遅く鳴り、ほんのわず
(土) かに変わった。あれほど暑かったのに、8月半ばになると、ちゃんと涼しくなっていく。こういうことが人間に何かを悟らせる。

『最近、植物園へ行くのがたのしみになっているの』。3ヶ月ぶりにあった友人が近況を語る。仕事をやめてから自分の時間をとりもどすように独りで出かけて、季節のいい時に行った植物園へ通うようになった。

『枯葉が落ちて枝だけになった木が、また春には若葉をたたえる。ほんと、通っていると、いとおしくなるよ!』。時間に余裕ができ、心が外にむき、独りの時間を愉しみ、いつもそこにある<応え>に気づく。

自分を生きる。喜怒哀楽が小刻みに日常におりこまれる。明日を案じて不安も感じる。そういう中でいつも自分で答えを出しながら前へ進む。その合間に、空を見上げ、風を感じ、木々のそばに立つ。

すると何かしらわいてくる。感情、考え、気持ち。自然と呼応して、おおらかで、たおやかで、ふっきれる思い。直接的ではないけど、決定的な答えが生まれて、おだやかに次へ進む。

植物園通いで自然のなせるワザに気づいた友人の悦び、共感。

2015/8/19 ただならぬもの 朝晩少し涼しくなった。まだかろうじて蝉が鳴いている。でも
(水) 石 ほんの短時間。高校野球も準決勝、早稲田実業はどうなったかとニュースをチェック。おっ、負けていた。8月も残り十日ほど。

一昨日の夕刊に愛宕念仏寺のことが載っていた。仏野念仏寺のこと?、いや違った。仏野念仏寺には何度か訪ねたことがある。このお寺についてはもう20年も前、新聞に載った記事が今も記憶に残る。

仏野念仏寺は無縁仏を無数に祀っている。なんとその石仏を持ち帰る人がいたらしい。よくもそんな罰当たりなことをとを感じる。持ち帰る人は一人や二人ではなかったらしい。

そうして持ち去られて石仏が徐々に戻ってきたという記事だった。多くの場合、手紙と供養を頼むお布施が添えられていた。ある手紙は子供からのものだった。親のしたことを切々と詫びてあったのだとか。

親が石仏を庭の飾りに置いて以来、交通事故や病気など、災い続きで、当の親もこの世を去った。これは尋常じゃない。やはり石仏のせいだろうと考えて、戻してきたのだった。

同じような記事が先月の日経に載っていた。20年前に盗まれた2000年前の古代遺物が返却されたとイスラエル考古学庁が発表したというもの。返却物にはメモが添えてあった。「不幸しかもたらさなかった」。

その古代遺物が、これまた石。侵攻に対抗する大型投石器用の石。地霊という言葉があるぐらいだから、石にも魂が宿るのではないか。たぶん、木もしかり。その地にあるもの、その地のものとして敬うこと大事。

2015/8/22
(土)

意思

三日前の夜に虫の声を聞いた。8月も残り十日になった。夏休みももう終るのか思った子供の頃の名残惜しさ。それを心身が記憶しているのか、8月の下旬になると、いつも以上に独りの時間をすごしたくなる。明日23日は処暑。

今年は前の旬以上に「戦後70年」がクローズアップされた。新聞、テレビ、ラジオが特集を組み、そのいくつかを見聞きした。中でもラジオで知った読売新聞の「引揚げ 本当の戦いー五木寛之一」の記事は、作家がいやがおうにも直観した人間の、人間なる所以を思い知った。

作家は語りを次のように結んでいた。『いつの時代も情報は隠されるものです。だからこそ自分たちで隠されたものを探り当てる熱気がないと、生きていけない。戦争の教訓はそれにつきます』。NHKの『戦争とプロパガンダ』が教えるように、自分の自由意思を守ることは相当に至難。

そう了解しておかなければ……。人間の情報経路の8割は視覚。6年前の新聞で『<意識>とは何だろうか』の著者が紹介していた研究結果も頷く。人は「なじみのある顔」、「より長く注視した顔」を選びやすいというもの。

それこそ意識して、観察と鑑察（善悪をよく見定めること）の習慣をつけなければとわが身に問いなおす8月の終わり。

猫を鉢合わせ 午後からクレオ東で起業相談、その後、クライアントの会社で打ち合わせ。終わったのは午後6時半ごろ、風が少し涼しかったのでうつぼ公園へ。大きな木が切られた後にちょこんと猫が居座る。



2015/8/27
(木)

リズム

影が伸びてきた。太陽の位置がかわってきた。朝の温かいコーヒーがおいしくなってきた。睡眠も寝やすく起きやすくなってきた。厳しい暑さの間にずれてしまった生活のリズムをとりもどす。8月も残りわずか。

日々の生活から長い人生にわたるまで、時々リズムがかわるのも良しとする。環境に無理に抗しようとする反動も大きい。変えてもいいところ、けっして変えていけないところ、それをおさえていればいい。

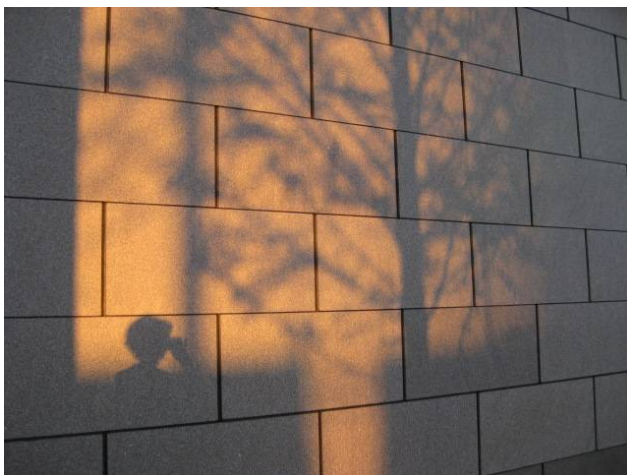
自分の中でかわるリズム、外からかえられるリズム。そういうものがあって、おもしろい。5年前の2010年はピタッとお酒をやめた年。年初のある日、ある瞬間に訪れた心境の変化。それがそうさせた。

おかげで「まるで別j」と言われるほど体重も落ちた。でも、また心境は変わるのだった。今ではまた増えた。そういう風にして、変わってっていくこと自体が、本人のもつ大きな流れのリズム。

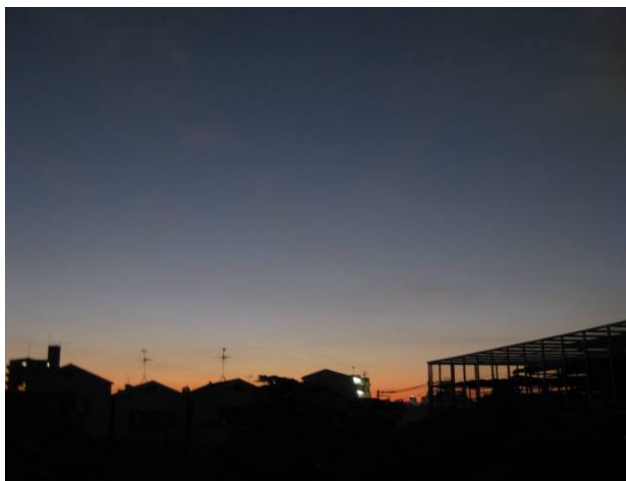
その大きなリズムが周辺に波打って、外からの変化を引き寄せる。そうなのだろうと思う。だから、ある日、ある瞬間に外から

そんなこんな、年を重ねてみる愉しみ。

影絵 帰り道、グランフロント西側を通ると、こんな絵



この日はよく晴れてきた。夜になりきる前の空にいつも気持ちをうばわれる。



2015/8/28 北山植物園

この日は臨時休を決めたいた。誕生日は独りの時間を待ち、心身を開放させたい。そう思い、京都の植物園へ。大芝生地で天と地をみなながら、お弁当をたべ、ノートを広げ、考え、書いて、③時間ほど過ごした。こういう時間こそ至福のとき。



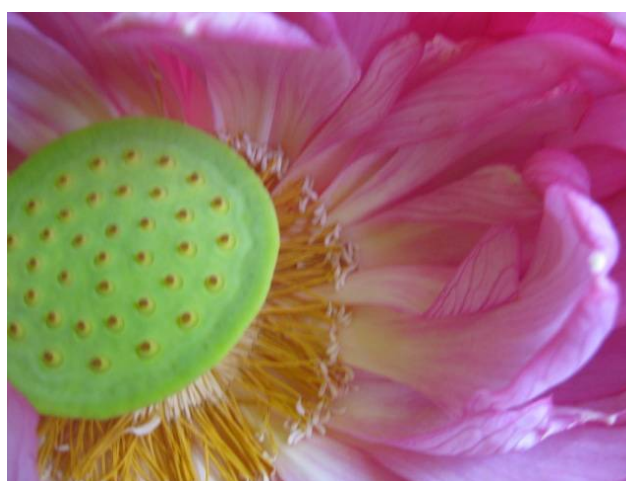




お彼岸前に咲く萩がここに！



蓮がまだ咲いていた



北山口から植物園を後にして、大阪へ戻り、夕刻になったが、お墓参りをした。



2015/8/31
(月)

「合わない」

日の出時間が5時半ぐらいになり、秋雨前線が列島にのび、銀杏の葉の色も少し落ちてきた。いつものことながら、一瞬、時間の合間に立ち時間を見ているような感覚。8月も今日で終わり。

教えられなくても経験的にわかることが多々ある。その一つは、接するメディアによって自分の精神に受ける影響。逐一気にとめていない分、心身のすき間に入り込み、侮れない。

テレビ、ラジオ、新聞は距離をおきながら見聞きする。これは！と思う場合は、目を見開き、聞き耳をたてる。何にこれは！となるのかは、これまでの蓄積に依るから、いずれにしても、自分の中に何を入れるか。

いつも知人の会社から定期的にニュースレターが届く。今回の記事の中に、時々意識して自分の嗜好に合わない情報に接するようにしていると書いてあった。

創造性は同質的なところからは生まれないと考えているから、これに同感。問題は、「合わない」範疇をどの程度におさめるか。あまりに逸脱すると、精神の穢れになりかねない。

とはいえ、そういうことはないのが常。「合わない」範疇も自ずと計っていて、合っても合わなくて自分のものにしていく。けっきょくのところ、よくもわるくも、自分を超えない自分。